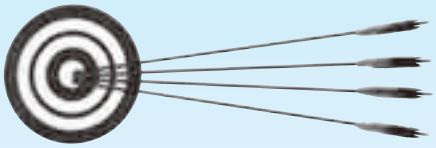
ゆめ半島 千葉国体 2010

国体の記憶 ❸

的に向かい続けた日々

秋谷 榮一さん（大室）

佐倉高校時代、弓道で福井国体出場。団体で優勝（近的）・準優勝（総合）を飾る。県総体個人優勝・団体優勝。2年時に二段位を取得



国体で使用した竹製の矢

弓道との出会いは高校1年の3月。学校に弓道部はなかったが、地元中学出身の先輩から「同好会を作るから」と引き込まれた。「東京オリンピックで活躍する選手にあこがれ、入学当初は体操部。でも体格的に向かず、すぐやめてしまいました。軽い気持ちで誘いに乗ったんです」と振り返る。

的に向かい合い心静まる瞬間。矢を放ったときの心地よい弦音（つるね）。弓道の持つ奥深さにすぐに魅了された。学校での練習だけでは飽き足らず、栗山公園近くにあり、成田高も使用していた弓道場に通うほど、のめり込んだ。「練習場は野外。冬は日が暮れるのも早く、自転車のライトやろうそくの明かりを頼りに射続けた。明けても暮れても弓道でした」。

練習量をばねに、めきめきと実力を付け、同好会が部活動に昇格した3年時には、県総体で個人優勝・団体優勝。気が付くと匝瑳高・海保選手、成田高・篠田選手とともに国体県代表に選ばれていた。

昭和43年、福井「親切国体」に出場。近的種目で、県勢初となる団体優勝を成し遂げた。「自分たちが一番驚きました。まさか、という思い。運がよかったんです」と話すが、大会前は、監督宅（旧八日市場市）に通い詰めの日々。人一倍の努力が実を結んだ瞬間だった。

大学進学を機に弓道からは遠ざかったが、国体には競技とは別の思い入れもある。それは開催地の温かいもてなしの心。「宿泊先の家族が優勝を誰よりも喜んでくれました。お祝いに腹いっぱいごちそうになった越前ガニ。あの味はずっと忘れられません」。

2年後に開催される「ゆめ半島千葉国体」。成田でも3競技が行われる。「市民として心を込めて迎えたい。選手たちには、すばらしい思い出をたくさんつくってほしいですから」。40年前の自身に重ね、懐かしそうに目を細めた。

競技に臨む秋谷選手（昭和43年）。当時の試合着はシャツとズボンだった

編集後記

先日「東北広報サミット」に参加して来ました。愛知県や広島県からの参加者もいて、いかに親しまれる紙面を低予算で作るか、熱い議論が交わされました。1年生の私はただ聞いているだけ…。全国広報コンクール入選の常連も多く、広報ってどんな形がいいのか考えさせられました。今年も残すところ後わずか、来年はもっと良い紙面になるようガンバリます。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成20年12月15日号 No.1137

成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成20年12月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 花崎町760番地　電話22-1111（大代表）
広報なりたは再生紙を使用しています。